

キヌカ
ESCAラリー

春藤篤志

8月某日（合宿以後）

高橋氏から暑中見舞いと兼ねたESCAラリーの事を伝える手紙がとどいた。「あれ、俺ESCAラリーに参加することになったの？ そりゃないせ」。8月の末は何かと忙しいのに、アルバイト（家庭教師）はまた2回残っている（合宿中のぶん）。武道館では予入のコンサートがあるではないの。千代さんの元気が姿見たいよ〜。」そんな訳で、自分でハイゼップのつもりでいたのだが……。

8月某日

電話があった。「……やほ。……やで。ほな。……せや」初め誰たかさ、ぱりわからなかった。耳が少しだけESCAという言葉と聞いて高橋氏だということがわかった。そして、その伝えるところが29日又時以高尾駅に集合するのとたどわかった。次の瞬間、電話が切れた……（3秒の沈黙）。「わ〜 やらした。みごとにはわからなかった。肉両弁で後肝を扱

いておき、相手にうひもも言わせぬ奥面のヤーン凡の容囲氣に完全にのりおこして来た。その結果、ヤンピの表明もできぬやみおわってしめた。」

このようないまさらにより、私は不本意ながらESC Aラリーに参加することになったのであります。

8月29日

—高尾駅—

中央線から輸行袋とみつけた若者が次に降りてくる。ま、と、ESC Aラリーに参加するヒマな奴らだろ。そのうち、高橋氏たちが来たのだが、高橋氏の話によると、名取⁺氏、佐藤⁺氏がヤンピといふとだった。「ま、たくし年のくせにカねえなあ、結局参加するのは、高橋氏、西口氏、志波氏を以て、俺の4人だよ、カねえなあ、30符1カねえから、⁷⁷⁰⁰7700だよ。今、沈んでるからなあ。よし、今度は役満だ。」

—小淵沢駅—

とまあ、書き初めからこころは、如何なる超大作

が出来上がるのか。山岡荘人の『徳川家康』をほぼ
全編のいでほうのかと思わせるほどのスケールの大き
さ(と自分だけ決め込んでいた)で展開はきま
りたか。私、何か多忙な身の上故、この超大作
は次の機会へ譲らさせていたきたいと思ひます。

で、早い話がよ〜。清里から松原湖まで、ペアで
走り、予め決まっていた時間(10コくらいある)に
一番近いペアが賞をもら、たんだわなあ。まあ、フタシ
〜残念ながら、賞はもらえなかったんだけんどよ。
まあ、そりゃ〜、楽しかったわなあ。(トセカ、西田
敏行調になた)

紙面が余ったので、恐縮ながら私の紹介を

キスカ [動] 昆虫類

キスカ科下等キスカ種

[学名] タイショウセイヤフリマワシモノ

キスカスキカ

[特色・特徴]

東エタのキサラギ寮付近に出没し、常に
高井康隆の文庫本をむさぼっている。人畜
無害。青梅の山中に巣があるらしい。